

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0492200118		
法人名	株式会社グリーン企画		
事業所名	グループホームすまいる ユニット:つくし		
所在地	宮城県柴田郡大河原町字東32		
自己評価作成日	令和3年1月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2021年2月3日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ユニット名の由来となっている「思いを尽くし、利用者の皆さんを慈しむ」を大切にしながら、利用者も利用者の家族も、職員も皆家族という思いで、日々のケアにあたっています。防災訓練では婦人防火クラブの参加、花火大会では近隣の方も参加したりと、地域との交流も少しずつ増えてきており、より一層地域に情報発信していきたいと思っています

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、大河原町の中心部に位置する木造2階建て2ユニットの事業所である。周辺には商業施設、町役場、病院などがあり、利便性が高い地域である。庭から蔵王連峰が望め、近くの小学校に桜を見に出掛けるなど、自然に親しめる環境となっている。同法人が運営する有料老人ホームが隣接しており、イベントや夜間の避難訓練を合同で行い、非常食の備蓄も連携を図っている。理念は「家族らしいあたたかな生活と安心できる住まいを提供します」「ともに学び支え合い、喜怒哀楽を共有し共に成長していきます」「地域とのつながりを大切にし思いやりの輪をひろげます」を掲げている。職員は理念を念頭に、利用者が手作りした寄せ植えをテーブルに飾るなど、一人ひとりに寄り添いながらケアに努めている。食事からも季節が楽しめるよう工夫し、干し柿づくり、餅つき、年越しそばなど、利用者の笑顔に繋がっている。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームすまいる）「ユニット名 つくし」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有できるようリビングに掲げ、勉強会・カンファレンスでは全員で唱和している。	ホームの理念は、代表者と職員が話し合い作成した。年度末に、職員のアンケートをもとに振り返っている。理念はリビングと会議室に掲示し、毎月の会議や勉強会時に全員で唱和している。職員は利用者・家族の希望が叶えられるよう理念を念頭に支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	防災訓練の際には婦人防火クラブの参加、花火大会では近隣の方の参加もあり、地域との交流を目指している。が、昨年からコロナウイルスの関係で思うようには進んでいない。	町内会に加入している。避難訓練時の協力体制やホームで開催する花火大会に地域住民が参加するなど、地域交流を図っていたがコロナ禍で、参加が難しい状況にある。「認知症カフェ」の取り組みも行政と相談し中断している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	誰でも気軽に来訪してもらえるような雰囲気作りに心掛け、認知症に対する理解が深められるよう努めている。が、コロナウイルスの関係で来訪を断る文面を掲示しなければならないのが心苦しい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回開催し、取り組み状況を伝えたり、アドバイスを頂いている。コロナウイルスの関係で、スタッフと利用者様だけの参加で、他の参加予定者の方には議事録を書面でお送りし意見を賜った回もあった。	隔月、区長、民生委員、町福祉課職員、地域包括職員、利用者、家族、職員が参加し開催している。コロナ禍で文書を送付し意見を聞くこともあったが、現在は通常開催している。入居状況や活動などを報告し、意見を聞いている。身体拘束適正化委員会も同時に開催しており、事故報告時には活発に意見が交わされ防止に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月一回は訪問し、顔馴染みの関係となっており、協力関係を気付けるよう取り組んでいる。	管理者は、毎月、町福祉課と地域包括支援センターに出向き理解を深めている。手続きに関する相談やコロナ禍における運営推進会議について、消毒液の不足などの相談も行っている。外部評価結果と目標達成計画を町に提出している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束による弊害を学び、施錠やスピーチロックも含め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会を運営推進会議の中で開催し、職員には議事録を回覧し周知している。年2回、職員はセルフチェックを行い、ケアを振り返り確認している。玄関施錠は19時から翌朝6時までである。日中は施錠を行わず、所在確認表を活用し職員間で情報共有している。外出要求が強い利用者には、職員が同行しながら散歩するなど気分転換を図っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にて学び、日頃のケアにおいて虐待にあたらないか全員で考えながら、虐待防止に努めている。	年2回、身体拘束をしないケアと高齢者虐待防止についての勉強会を行っている。スピーチロックについては、管理者が指導している。また、利用者がなぜそのようにしたのか、原因に繋がることなどを振り返り、思いに気づくよう職員間で検討し話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を検討していた際にパンフレットを職員で回覧、スタッフ間で話し合った。また2月にある権利擁護研修を管理者が参加する予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明し、安心して納得し入居できるようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの家族説明時や来訪の際・運営推進会議出席の際には、意見を聞いたり、行事や誕生日には家族にも招待の声掛けを行っている(昨今はコロナにより招待の声がけはしていない)。	コロナ禍で、家族の面会やイベントの参加が制限され、意見や要望を聞く機会が少なくなっている。介護用品を届けに来た折や、電話で利用者の様子を伝える時など、機会をとらえて意見・要望を聞いている。オンライン面会を導入したことなど、「すまいる通信」で知らせている。利用者の意見で食事量を見直した。	コロナ禍においても、家族との連携を図り、意見や要望を聞く機会を増やしていけるよう工夫する取り組みを期待する。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で、意見や提案を聞き、運営に反映させている。	毎月のカンファレンス会議や勉強会の時に、代表者を交え話し合う機会を設けている。半期に1回、代表者との面談も行っている。エレベーターにストレッチャーが乗らないという意見が出され、終末期の利用者の居室を2階から1階に移動した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員個々の能力や状況を反映し、整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、同業者と交流する場合には、サービスの質を向上をできるように努めている。	隣接している同法人のヘルパーステーションと一緒に合同で行事や研修を実施し、交流を図りながら施設運営に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心しを確保できるよう、不安や要望を確認しながら、信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が安心を確保できるよう、不安や要望を確認しながら、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時何を必要としているか見極め、様々なサービス利用も含め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする者として、できることは利用者と一緒に行っている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も一緒に支援する者として、本人を共に支えていく関係を築いている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの関係を継続できるよう、馴染みの場所へ出掛けたり、友人が来訪したりしている。	コロナ禍以前は食材の購入に一緒に出掛けたり、家族や友人、近所の人などの来訪があった。現在は馴染みの関係が途切れないよう、電話を介して支援している。2ヶ月に1回、理容師が来所している。また、馴染みの美容院へ家族と行く利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握しながら、利用者同士が支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居しても、来訪し野菜を届けてくれたりと、サービスが終了しても、必要に応じて相談、支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の何気ない会話の中から、一人ひとりそれぞれの思いや希望を把握できるよう努めている。	利用者の思いや意向は、入浴時や居室など一対一でゆっくり向き合える時に聞くことが多く、申し送りノートに記載し職員間で情報共有している。食べたいものなどは、献立に反映できるよう取り組んでいる。意思表示が困難な利用者には、家族から情報を得たり、生活歴を参考に、表情や身振りを通して思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には、生活歴や馴染みのものなど聞き取りし、入居してからも確認しながら、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり、それぞれの過ごし方を把握し、本人のペースで過ごせるよう努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活の中で何が支障となっているのか、本人や家族の意向を確認し、より良く暮らせるよう介護計画を作成している。	年2回、利用者、家族、医師から意見を聞き、介護計画を作成し、状態が変化した際には随時見直している。月1回、モニタリングを実施している。職員は担当制であり、担当する職員が利用者の状況を日常的に把握しており、カンファレンスへ繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段と違う言動など、気づきを個別記録に記入、情報共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のニーズに滞欧できるよう、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節の花を見に出掛けたり、楽しみな生活となるよう支援している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医への受診を継続し、適切な医療を受けている。また、通院が難しい利用者には往診の紹介をし、適切な診療を受けられるようにしている。	利用者、家族が希望するかかりつけ医を受診している。家族付き添いでの受診時には、バイタル表などのコピーを渡し、適切な医療を受けられるよう支援している。受診後は介護記録に記載し、職員間で情報共有している。往診医がかかりつけ医の利用者は、訪問診療を受けている。歯科医の往診もある。週1回、訪問看護師が健康管理を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護にて、情報共有や相談し、適切な看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	できるだけ早期に退院できるよう、情報交換や相談に努め、関係づくりを行っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期に向けたケアの希望を聞き、事業所でできること、できないことを説明し、意向に沿って支援に取り組んでいる。	入居時に重度化対応・終末期ケア対応指針を説明し、看取りについての事前確認書に同意を得ている。かかりつけ医の判断のもと、重度化における対応を行っている。家族、職員、医療関係者と連携を図り、利用者の気持ちを最優先した終末期ケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会にて緊急時の対応方法を学んでいる。訪問看護ステーション職員と緊急時・看取り時の対応を学ぶ機会を設けている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は地域や近隣の方へ、消防避難訓練参加をお願いし、協力体制を築いている。また、水害対策として、1階から2階へ移動する訓練も行っている。	火災・風水害・地震マニュアルが作成されている。年2回、避難訓練を実施し、うち1回、例年は地域住民と婦人防火クラブが参加して夜間想定訓練を行っていたが、コロナ禍で参加は得られていない。3ヶ月に1回、災害時の避難のための移動訓練を利用者と職員で行っている。器具の点検は毎月、法定点検は年2回業者が行っている。備蓄品は3～7日分あり、有料老人ホームと合同で保管している。新型コロナウイルス感染症の勉強会は随時、感染症の勉強会は年1回行い、マスク・手袋・消毒液なども備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーについて、学ぶ機会を持ち、プライバシーに配慮した声掛けと対応をしている。	年1回、接遇やプライバシー尊重の勉強会を行い、一人ひとりの人格の尊重、プライバシー確保に努めている。入室時にはノックと声掛けを行っている。排泄介助は、さりげなくトイレに誘導し対応している。呼び名は、ほとんどの人が名前に「さん」付けて呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を自由に表出できるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで過ごせるよう、できるだけ希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの洋服を着たり、髪を長くしたりと、その人らしいおしゃれができるよう支援している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に野菜を切ったり、盛り付けや後片付けを行っている。	メニューは、2つのユニットの管理者が交互に、利用者の好みや健康面に配慮して作成している。栄養チェックは、カロリー計算も含め管理者が行っている。食材は系列のホテルから届き、週1回は刺身が提供されている。調理は、利用者の残存能力を活かし、職員と一緒にやっている。季節感を楽しめるよう食事を工夫し、干し柿づくりや餅つき、年越しそばなど、利用者の笑顔に繋がっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	多品目のおかずを提供し、十分に食事や水分が確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や食後、就寝前には口腔ケアを行っている。寝たきりの場合など歯ブラシによるケアができない方には歯磨きティッシュなど使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレで排泄できるよう、声掛けや誘導を行っている。夜間歩行不安定な利用者にはポータブルトイレを使用することもある。	介護記録から排泄パターンを把握し、タイミングに合わせ早めの声掛けをしながら、トイレ誘導を行い、可能な限りトイレで排泄できるよう支援している。夜間巡回時にタイミングに合わせて声掛けや、リハパンやポータブルトイレを使用するなど一人ひとりに合わせている。便秘予防に毎朝牛乳を提供している。便秘気味の利用者には、お腹をマッサージしたり、医師の処方薬を服用する人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳を提供したり、食物繊維を多く含んだ食事の提供している。できるだけ身体を動かして、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間は午前中に希望する利用者が多い、午後希望の方には対応している。また入浴できない日には足浴を行っている。	週2回を基本に入浴支援し、利用者の希望に応じて回数を増やすこともある。湯は毎回交換し、好みの湯加減で入浴剤や柚子湯などの季節湯を楽しみながら気持ちよく入浴できるよう支援している。入浴拒否の利用者には、無理強いせず声がけのタイミングを図るなどしている。浴室・脱衣所には暖房設備を設け配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それまでの生活習慣や状況に応じて、午睡をしたり、休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解できるよう、薬情報はすぐにとることができる場所に置いている。変更などあれば、確実に情報共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割作りに心掛け、家事作業を行ってもらっている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺を散歩したり、季節の花を見に出掛けたりと、出掛けられるよう支援している。	例年は、年間計画を立て、福祉車両を使い車いすの利用者も一緒に花見などに出掛けていた。今年の花見は車内から、近所の小学校の桜を愛でた。コロナ禍で外出を自粛していることもあり、ホーム内で行うイベントを工夫している。書初めや、どんと祭前の地域行事を再現したり、節分では利用者や職員が鬼に扮したりして楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在小遣いを所持している利用者はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話で自由に会話したり、定期的に手紙が届いたり、やり取りしている。また、オンラインでの面会も推奨している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの掲示物は季節を感じられるよう工夫しており、心地よく穏やかに過ごせるよう配慮している。	明るく広々としたリビングでは、「はつらつ体操」などが行なわれている。リビングの一角にはソファが置かれ、談話できるスペースが設けられている。利用者は、テレビを見たり思い思いに過ごしている。時計やカレンダーは見やすい場所に設置され、利用者が手作りした折り紙や家族が制作した吊るし雛などが飾られ、家庭的な雰囲気を感じられる。廊下の一角にあるテーブルには、利用者が作った寄せ植えが置かれている。温・湿度は職員が管理し、冬場は加湿器も利用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで気の合う利用者同士で過ごしたり、テレビ前のソファで過ごせるよう工夫している。また、静かな場면을好む利用者と少人数の共有スペースも用意している。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物をできるだけ持ち込んでもらい、配置も工夫しながら環境変化を少なくできるよう工夫している。	居室には家族手作りの表札が掛けられ、エアコン・カーテン・洗面台・クローゼット・火災報知器・スプリンクラー・ナースコール・加湿器(冬場)が備え付けられている。利用者は馴染みのベッドやイス、テレビ、仏壇、家族の写真などを持ち込み、その人らしい部屋になっている。清掃は毎日利用者とともに職員が行い、温・湿度の管理も行っている。整理整頓は担当職員と利用者と一緒にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所が分かるよう表示し、安全に移動でき、自立した生活が送れるよう工夫している。		

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0492200118		
法人名	株式会社グリーン企画		
事業所名	グループホームすまいる ユニット:わらび		
所在地	宮城県柴田郡大河原町字東32		
自己評価作成日	令和3年1月19日	評価結果市町村受理日	

## ※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2021年2月3日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ユニット名の由来となっている「思いを尽くし、利用者の皆さんを慈しむ」を大切にしながら、利用者も利用者の家族も、職員も皆家族という思いで、日々のケアにあたっています。防災訓練では婦人防火クラブの参加、花火大会では近隣の方も参加したりと、地域との交流も少しずつ増えてきており、より一層地域に情報発信していきたいと思っています

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、大河原町の中心部に位置する木造2階建て2ユニットの事業所である。周辺には商業施設、町役場、病院などがあり、利便性が高い地域である。庭から蔵王連峰が望め、近くの小学校に桜を見に出掛けるなど、自然に親しめる環境となっている。同法人が運営する有料老人ホームが隣接しており、イベントや夜間の避難訓練を合同で行い、非常食の備蓄も連携を図っている。理念は「家族らしいあたたかな生活と安心できる住まいを提供します」「ともに学び支え合い、喜怒哀楽を共有し共に成長していきます」「地域とのつながりを大切に思いやりの輪をひろげます」を掲げている。職員は理念を念頭に、利用者が手作りした寄せ植えをテーブルに飾るなど、一人ひとりに寄り添いながらケアに努めている。食事からも季節が楽しめるよう工夫し、干し柿づくり、餅つき、年越しそばなど、利用者の笑顔に繋がっている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームすまいる）「ユニット名 わらび」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有できるようリビングに掲げ、勉強会・カンファレンスでは全員で唱和している。	ホームの理念は、代表者と職員が話し合い作成した。年度末に、職員のアンケートをもとに振り返っている。理念はリビングと会議室に掲示し、毎月の会議や勉強会時に全員で唱和している。職員は利用者・家族の希望が叶えられるよう理念を念頭に支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	防災訓練の際には婦人防火クラブの参加、花火大会では近隣の方の参加もあり、地域との交流を目指している。が、昨年からコロナウイルスの関係で思うようには進んでいない。	町内会に加入している。避難訓練時の協力体制やホームで開催する花火大会に地域住民が参加するなど、地域交流を図っていたがコロナ禍で、参加が難しい状況にある。「認知症カフェ」の取り組みも行政と相談し中断している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	誰でも気軽に来訪してもらえるような雰囲気作りに心掛け、認知症に対する理解が深められるよう努めている。が、コロナウイルスの関係で来訪を断る文面を掲示しなければならないのが心苦しい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回開催し、取組み状況を伝えたり、アドバイスを頂いている。コロナウイルスの関係で、スタッフと利用者様のみでの参加で、他の参加予定者の方には議事録を書面でお送りし意見を賜った回もあった。	隔月、区長、民生委員、町福祉課職員、地域包括職員、利用者、家族、職員が参加し開催している。コロナ禍で文書を送付し意見を聞くこともあったが、現在は通常開催している。入居状況や活動などを報告し、意見を聞いている。身体拘束適正化委員会も同時に開催しており、事故報告時には活発に意見が交わされ防止に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月一回は訪問し、顔馴染みの関係となっており、協力関係を気付けるよう取り組んでいる。	管理者は、毎月、町福祉課と地域包括支援センターに出向き理解を深めている。手続きに関する相談やコロナ禍における運営推進会議について、消毒液の不足などの相談も行っている。外部評価結果と目標達成計画を町に提出している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束による弊害を学び、施錠やスピーチロックも含め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会を運営推進会議の中で開催し、職員には議事録を回覧し周知している。年2回、職員はセルフチェックを行い、ケアを振り返り確認している。玄関施錠は19時から翌朝6時までである。日中は施錠を行わず、所在確認表を活用し職員間で情報共有している。外出要求が強い利用者には、職員が同行しながら散歩するなど気分転換を図っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にて学び、日頃のケアにおいて虐待にあたらないか全員で考えながら、虐待防止に努めている。	年2回、身体拘束をしないケアと高齢者虐待防止についての勉強会を行っている。スピーチロックについては、管理者が指導している。また、利用者がなぜそのようにしたのか、原因に繋がることなどを振り返り、思いに気づくよう職員間で検討し話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を検討していた際にパンフレットを職員で回覧、スタッフ間で話し合った。また2月にある権利擁護研修を管理者が参加する予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明し、安心して納得し入居できるようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの家族説明時や来訪の際・運営推進会議出席の際には、意見を聞いたり、行事や誕生日には家族にも招待の声掛けを行っている(昨今はコロナにより招待の声がけはしていない)。	コロナ禍で、家族の面会やイベントの参加が制限され、意見や要望を聞く機会が少なくなっている。介護用品を届けに来た折や、電話で利用者の様子を伝える時など、機会をとらえて意見・要望を聞いている。オンライン面会を導入したことなど、「すまいる通信」で知らせている。利用者の意見で食事量を見直した。	コロナ禍においても、家族との連携を図り、意見や要望を聞く機会を増やしていけるよう工夫する取り組みを期待する。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で、意見や提案を聞き、運営に反映させている。	毎月のカンファレンス会議や勉強会の時に、代表者を交え話し合う機会を設けている。半期に1回、代表者との面談も行っている。エレベーターにストレッチャーが乗らないという意見が出され、終末期の利用者の居室を2階から1階に移動した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員個々の能力や状況を反映し、整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、同業者と交流する場合には、サービスの質を向上をできるように努めている。	隣接している同法人のヘルパーステーションと一緒に合同で行事や研修を実施し、交流を図りながら施設運営に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心しを確保できるよう、不安や要望を確認しながら、信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が安心を確保できるよう、不安や要望を確認しながら、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時何を必要としているか見極め、様々なサービス利用も含め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする者として、できることは利用者と一緒に行っている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も一緒に支援する者として、本人を共に支えていく関係を築いている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの関係を継続できるよう、馴染みの場所へ出掛けたり、友人が来訪したりしている。	コロナ禍以前は食材の購入に一緒に出掛けたり、家族や友人、近所の人などの来訪があった。現在は馴染みの関係が途切れないよう、電話を介して支援している。2ヶ月に1回、理容師が来所している。また、馴染みの美容院へ家族と行く利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握しながら、利用者同士が支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居しても、来訪し野菜を届けてくれたりと、サービスが終了しても、必要に応じて相談、支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の何気ない会話の中から、一人ひとりそれぞれの思いや希望を把握できるよう努めている。	利用者の思いや意向は、入浴時や居室など一対一でゆっくり向き合える時に聞くことが多く、申し送りノートに記載し職員間で情報共有している。食べたいものなどは、献立に反映できるよう取り組んでいる。意思表示が困難な利用者には、家族から情報を得たり、生活歴を参考に、表情や身振りを通して思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には、生活歴や馴染みのものなど聞き取りし、入居してからも確認しながら、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり、それぞれの過ごし方を把握し、本人のペースで過ごせるよう努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活の中で何が支障となっているのか、本人や家族の意向を確認し、より良く暮らせるよう介護計画を作成している。	年2回、利用者、家族、医師から意見を聞き、介護計画を作成し、状態が変化した際には随時見直している。月1回、モニタリングを実施している。職員は担当制であり、担当する職員が利用者の状況を日常的に把握しており、カンファレンスへ繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段と違う言動など、気づきを個別記録に記入、情報共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のニーズに滞欧できるよう、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節の花を見に出掛けたり、楽しみな生活となるよう支援している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医への受診を継続し、適切な医療を受けている。また、通院が難しい利用者には往診の紹介をし、適切な診療を受けられるようにしている。	利用者、家族が希望するかかりつけ医を受診している。家族付き添いでの受診時には、バイタル表などのコピーを渡し、適切な医療を受けられるよう支援している。受診後は介護記録に記載し、職員間で情報共有している。往診医がかかりつけ医の利用者は、訪問診療を受けている。歯科医の往診もある。週1回、訪問看護師が健康管理を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護にて、情報共有や相談し、適切な看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	できるだけ早期に退院できるよう、情報交換や相談に努め、関係づくりを行っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期に向けたケアの希望を聞き、事業所でできること、できないことを説明し、意向に沿って支援に取り組んでいる。	入居時に重度化対応・終末期ケア対応指針を説明し、看取りについての事前確認書に同意を得ている。かかりつけ医の判断のもと、重度化における対応を行っている。家族、職員、医療関係者と連携を図り、利用者の気持ちを最優先した終末期ケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会にて緊急時の対応方法を学んでいる。訪問看護ステーション職員と緊急時・看取り時の対応を学ぶ機会を設けている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は地域や近隣の方へ、消防避難訓練参加をお願いし、協力体制を築いている。また、水害対策として、1階から2階へ移動する訓練も行っている。	火災・風水害・地震マニュアルが作成されている。年2回、避難訓練を実施し、うち1回、例年は地域住民と婦人防火クラブが参加して夜間想定訓練を行っていたが、コロナ禍で参加は得られていない。3ヶ月に1回、災害時の避難のための移動訓練を利用者と職員で行っている。器具の点検は毎月、法定点検は年2回業者が行っている。備蓄品は3～7日分あり、有料老人ホームと合同で保管している。新型コロナウイルス感染症の勉強会は随時、感染症の勉強会は年1回行い、マスク・手袋・消毒液なども備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーについて、学ぶ機会を持ち、プライバシーに配慮した声掛けと対応をしている。	年1回、接遇やプライバシー尊重の勉強会を行い、一人ひとりの人格の尊重、プライバシー確保に努めている。入室時にはノックと声掛けを行っている。排泄介助は、さりげなくトイレに誘導し対応している。呼び名は、ほとんどの人が名前に「さん」付けて呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を自由に表出できるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで過ごせるよう、できるだけ希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの洋服を着たり、髪を長くしたりと、その人らしいおしゃれができるよう支援している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に野菜を切ったり、盛り付けや後片付けを行っている。	メニューは、2つのユニットの管理者が交互に、利用者の好みや健康面に配慮して作成している。栄養チェックは、カロリー計算も含め管理者が行っている。食材は系列のホテルから届き、週1回は刺身が提供されている。調理は、利用者の残存能力を活かし、職員と一緒にやっている。季節感を楽しめるよう食事を工夫し、干し柿づくりや餅つき、年越しそばなど、利用者の笑顔に繋がっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	多品目のおかずを提供し、十分に食事や水分が確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や食後、就寝前には口腔ケアを行っている。寝たきりの場合など歯ブラシによるケアができない方には歯磨きティッシュなど使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレで排泄できるよう、声掛けや誘導を行っている。夜間歩行不安定な利用者にはポータブルトイレを使用することもある。	介護記録から排泄パターンを把握し、タイミングに合わせて早めの声掛けをしながら、トイレ誘導を行い、可能な限りトイレで排泄できるよう支援している。夜間巡回時にタイミングに合わせて声掛けや、リハパンやポータブルトイレを使用するなど一人ひとりに合わせている。便秘予防に毎朝牛乳を提供している。便秘気味の利用者には、お腹をマッサージしたり、医師の処方薬を服用する人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳を提供したり、食物繊維を多く含んだ食事の提供している。できるだけ身体を動かして、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間は午前中に希望する利用者が多い、午後希望の方には対応している。また入浴できない日には足浴を行っている。	週2回を基本に入浴支援し、利用者の希望に応じて回数を増やすこともある。湯は毎回交換し、好みの湯加減で入浴剤や柚子湯などの季節湯を楽しみながら気持ちよく入浴できるよう支援している。入浴拒否の利用者には、無理強いせず声がけのタイミングを図るなどしている。浴室・脱衣所には暖房設備を設け配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それまでの生活習慣や状況に応じて、午睡をしたり、休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解できるよう、薬情報はすぐにとることができる場所に置いている。変更などあれば、確実に情報共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割作りに心掛け、家事作業を行ってもらっている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺を散歩したり、季節の花を見に出掛けたりと、出掛けられるよう支援している。	例年は、年間計画を立て、福祉車両を使い車いすの利用者も一緒に花見などに出掛けていた。今年の花見は車内から、近所の小学校の桜を愛でた。コロナ禍で外出を自粛していることもあり、ホーム内で行うイベントを工夫している。書初めや、どんと祭前の地域行事を再現したり、節分では利用者や職員が鬼に扮したりして楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在小遣いを所持している利用者はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話で自由に会話したり、定期的到手紙が届いたり、やり取りしている。また、オンラインでの面会も推奨している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの掲示物は季節を感じられるよう工夫しており、心地よく穏やかに過ごせるよう配慮している。	明るく広々としたリビングでは、「はつらつ体操」などが行なわれている。リビングの一角にはソファが置かれ、談話できるスペースが設けられている。利用者は、テレビを見たり思い思いに過ごしている。時計やカレンダーは見やすい場所に設置され、利用者が手作りした折り紙や家族が制作した吊るし雑などが飾られ、家庭的な雰囲気を感じられる。廊下の一角にあるテーブルには、利用者が作った寄せ植えが置かれている。温・湿度は職員が管理し、冬場は加湿器も利用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで気の合う利用者同士で過ごしたり、テレビ前のソファで過ごせるよう工夫している。また、静かな場면을好む利用者と少人数の共有スペースも用意している。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物をできるだけ持ち込んでもらい、配置も工夫しながら環境変化を少なくできるよう工夫している。	居室には家族手作りの表札が掛けられ、エアコン・カーテン・洗面台・クローゼット・火災報知器・スプリンクラー・ナースコール・加湿器(冬場)が備え付けられている。利用者は馴染みのベッドやイス、テレビ、仏壇、家族の写真などを持ち込み、その人らしい部屋になっている。清掃は毎日利用者とともに職員が行い、温・湿度の管理も行っている。整理整頓は担当職員と利用者と一緒にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所が分かるよう表示し、安全に移動でき、自立した生活が送れるよう工夫している。		